

消防局の組織及び装備に

ついて

桐田真人

福岡県福岡市 消防局の組織及び装備について

1、福岡市概況

福岡市は、福岡県の西部に位置し、九州地方における政治経済・交通の中心地であるとともに最大の人口を有している。

同市は、博多湾に面しており、古来より大陸との玄関口として利用され、中世には商人による自治都市が形成され豊かな町人文化を育み、幾度の戦禍に見舞われながらも発展し、黒田氏が福岡城と城下町を築き、活気に満ち溢れた町として賑わいを見せていた。

その後、明治維新当時には、九州地方を統括する中央行政の出先機関が熊本市に置かれたことも影響し、九州地方における重要性が低い時期があったものの、その後の博多港の開港や九州大学（九州帝大）の設置を機に発展が進んだ。

現代においては、山陽新幹線や九州新幹線の博多延伸により九州地方の交通の要衝としての役割を大きく担うとともに商業の集積が進み継続的に発展している。また、政令市における人口増加率は、最大であり、人口の集積を進んでいる。

人口：約 1,510,000 人・約 745,000 世帯
面積：341.7 k m²

財政状況： 一般会計 約 7,600 億円
特別会計 約 8,100 億円
企業会計 約 2,200 億円
総・合計 約 1兆 8,000 億円（平成 25 年度）

2、福岡市消防局概要【詳細は別添 福岡市の消防参照】

消防局	1局 3部 8課 1学校 1航空隊 1災害救急指令センター 1音楽隊 1防災市民センター
署・分署・出張所等	7署 24出張所（7行政区に1署体制）
基準車輛関係	218台（消防ヘリコプター2機・消防艇1艇含む）
消防職員	1,029人
消防団	7団 64分団
消防団員	2,062名
出動件数	68,299件
防災・防火組織	自主防災組織・婦人防火クラブ・自衛消防隊（事業所）・ 幼年・少年消防クラブ
予算	約 140 億円（平成 25 年度）

3、消防装備の配備について

特徴

福岡市消防局における、消防装備の配備について特筆すべきは、消防航空隊に消防ヘリコプター「ゆりかもめ」と「ほおじろ」の2機を運用していることである。

消防航空隊は、山林火災や離島における救急活動や広域消防活動など広範にわたり活躍をしている。くわえて、災害時における空か

らの情報収集と得られた情報を素早く現場へと伝達を行い、通信指令体制の強化にも成果を上げている。

特に現場への的確な情報の提供が災害初期の円滑な活動を支援しており、二次災害の防止において、大きな成果をあげている。

また、2機を運用することで、点検保守などの長期の整備に対応することができ、1年間を通じて切れ目のない運用を行うことで、空からの防災能力を安定的に発揮することを可能にしている。

このように福岡市消防局は、災害現場における的確な情報の取集と提供が効果的な活動を支援し、そのことが二次災害防止に果たす役割の重要性を強く認識し、消防航空隊が空から得た情報を陸・海へと伝達することで全方向において効果的な災害対応を行っている。

また、この他にも救急搬送の場合には、医師を同乗させ現場に出動しており、ドクターヘリとしての機能も備え、福岡市のみならず福岡県および近接県の住民に対して安心安全を提供している。

4、消防艇「飛龍」について

経過概要

消防艇「飛龍」は、大津市消防局が更新整備を計画している消防艇次期「おおつ」がモデルとしている船舶である。

福岡市消防局が新たに更新整備する上で「飛龍」に期待していた能力は、消防艇の本来の沿岸火災に対応できる消防機能はもちろんのこと、博多湾離島で発生する救急需要に素早く対応できる急患輸送力や水難事故現場における探索力といった高い機動力と現場対応力であった。そのため整備計画策定の段階から「速力(機動力)」「放水力」「救急搬送力」「救助活動力」を船舶の基本性能として求め、導入を行ったものである。

「速力(機動力)」については、先進的なウォータージェットエンジンを装備しており、旧艇総トン数56トンから新艇19トンへと大幅にダウンサイズを図り、最高40ノット（時速74km）巡航速度30ノット（時速56km）を実現し、当初の目的である機動力の確保を実現している。このことは、高齢化に伴い増加傾向にある離島における救急需要に対して即応できる能力を備え、大きな成果を上げている。

また、ウォータージェットエンジンの導入により、浅瀬での航行

が可能となり、活動可能範囲が大幅に強化されており、速度および活動範囲の強化を両立している点にも注目しなければならない。

「放水力」については、消防艇が備えなければならない基本的な能力である。

この新艇には、国の中でも主要港湾施設である博多港の安全を守るという大きな役割を担っており、とりわけ多くの工場や港湾施設などが立地する沿岸における火災対応が求められる。この点についても、走行しながら1分間に6000リットル放水できる消防ポンプ能力（ポンプ車3台分）を装備しており、ウォータージェットエンジンの利点を活かし、対象物・災害現場の最前線において、放水を行うことができ、沿岸における消火能力の強化が図られている。

「救急搬送力」については、旧艇は大型であることから、一刻を争う救急出動には、機動力の面において大きな課題があったために、民間船を活用し、対応していた。

新艇の導入以後は、強化された機動力を存分に発揮し、離島における救急活動に従事している。また、船内には、救急処置室を設けており、併せてAEDや海上での揺れに対しても安定的に心臓マッサージが行えるよう、自動心臓マッサージ機などの救命資機材を常

備している。

「救助活動力」については、管轄する博多湾が24時間にわたり船舶の往来があることから昼夜を問わずの活動が求められており、これらを可能とする機能が装備されている。

まず、水難救助能力が強化され、夜間における暗視カメラが装備されている。また、救助用水中ソナーなども装備されている。

くわえて、船尾に振り出し式はしごも設置されており、大幅に水中探索能力の強化が図られている。

運用

「飛龍」が活動する海域は、海上保安庁・福岡県警が救難事故などの事案にそれぞれ対応している。この中で懸念される事として、その活動が重複することである。この点については、福岡市消防局・海上保安庁・福岡県警が協定書に基づいて活動する体制が整えられており、災害現場の状況により、それぞれに柔軟に対応している。

実績（新艇導入以後）

火災出動	10件
救急出動	35件【すべて離島3島への出動※詳細は別添 消防艇出動統計参照】
救助出動	61件
警戒出動	2件

福岡市消防局と大津市消防局 消防艇 比較

比較	飛龍	おおつ
進水	平成24年1月1日	昭和63年9月26日
全長 (M)	18.2 限定沿海	19.7 琵琶湖全域瀬田川
総トン数	19	26
船質	アルミニウム合金	耐食アルミニウム合金
航海能力	最大40ノット 巡航30ノット	23ノット
活動の内容	沿岸消火活動 離島における救急活動 海難救助活動	消火活動 湖上救助活動
推進装置	ウォータージェット 高速ディーゼル機関	デトロイトディーゼル
主消防装備	消防ポンプ1基・電動放水砲1基	消防ポンプ2基・手動放水砲4基
その他装備	AED・人工呼吸器や自動心臓マッサージ機などの救命器具	救急資機材一式
名称公募	旧艇の名称を継承	新艇での公募を検討

5、所感

今回の行政調査を通じて得られたことは、非常時における的確な情報取扱の重要性と整備更新における明確な方針を示すことの重要性である。

福岡市消防局は、消防航空隊に2機のヘリコプターを常備しており、その特性を活かして、災害現場の状況を空から撮影することで、その様子が指令管制所へリアルタイムに伝達されている。それらの情報が最前線の現場へと伝達され、効果的な消火・救急活動の遂行に大きく寄与し、二次災害などの防止に大きな成果をあげているものとする。

大津市は、今まで大きな災害に被災せず、比較的 안전한街であるという認識が市民の中に少なからず存在してきたものと推察する。しかし、一昨年の南部豪雨災害や昨年の台風18号被災を経験する中で、災害時における、的確な情報の収集と提供は、市民の生命財産を守る上で重要な役割を果たすものと認識されており、今後、混乱をしている災害現場における情報の取扱は、ますます重要度が増してくるものとする。

この点において、大津市消防局は、県の防災ヘリコプターとの連

絡連携を更に深めて、非常時における情報の収集と活用について、効果的な消防活動を可能とする指令管制情報システム体制の構築について研究を行うことを求めるものである。

次に、大津市消防局が更新整備を計画している消防艇3代目「おおつ」を導入するにあたり、機能面などにおいて参考した「飛龍」についてである。

近年、「飛龍」が管轄する海域内にある小呂島・玄界島・能古島の離島3島において、高齢化が一段と進み、救急出動の要請が多くなり、これらの需要に対応できる海上救急搬送能力が必要となっていた。新艇には、消防艇本来の消火能力に加えて、これらの要請に応えることのできる機動力が求められていた。これらの要請を受けて、新艇は、旧艇よりも大幅にダウンサイズを行い、海上における機動力が大幅に強化された。

このように、今現在において、消防艇に求められている機能について徹底的な調査を行い、必要な機能について研究を行った上で、必要とされる機能を新艇に反映させている。

この点、大津市消防局の更新整備における方針の中でも、「琵琶湖を守る唯一の消防救急艇」としての機能を充実させていくことが明

確に示されており、今後、想定される様々な事案に即応できる機能を備えたものになるものと認識している。

特に、琵琶湖で盛んなレジャースポーツに伴う、湖上事故に対応できる救難救助における機能強化と大規模災害時に陸上交通網が寸断された場合における、被災者や物資の湖上輸送などを担うことも想定しながら整備が進んでおり、更新後の活躍を期待するものである。

最後に、この調査で印象的な言葉について申し上げることにする。

説明時に、福岡市消防局の消防艇担当の局員の方が「この船は、良いです。自信を持ち、活動に取り組んでいます。」という言葉が、印象的であった。配備後の離島3島における救助活動の実績を念頭に入れた言葉であると推察ができた。

整備更新にあたり、最前線で活動する消防局員が使いやすい資機材であることが、士気を高め、結果、市民の安心安全の向上に大きく貢献するものと考えられる。

新しく更新される大津市消防局においても、市民の皆さまに親しまれる消防艇となることを期待するものである。

以上、福岡市消防局における行政調査報告書とする。